

10-3 西南日本内陸部の地震活動（1999年5月～10月）

Seismic Activity in the Inner Zone of Southwest Japan (May-October,1999)

京都大学防災研究所 地震予知研究センター

Research Center for Earthquake Prediction

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図は1999年5月から10月までの西南日本内陸部の地震活動状況を示す。この期間は、飛騨山脈の群発活動は前の期間よりもさらに静穏化していて、中部地方の地震活動は安定的なものとなっている。逆に近畿地方周辺では三重・奈良県境の群発地震活動は、少し数は減ったものの相変わらず継続している。他にもM3クラスの地震が前の期間よりも増加している。

1. 中部地方北西部の地震活動

第2図は飛騨地方北部および能登半島・富山湾周辺を含む北陸地方北部の地震活動状況を示す。

(1) 1月28日に長野県穂高町で発生したM4.9の地震の余震活動は継続しており、5月3, 4日にM3.9, 3.5の地震が発生している。また、(11) この地域の西方で、9月9日にM3.5の地震が発生している。(2) 能登半島沖地震の余震は、前の期間ほど活発ではなく、5月31日のM3.3の地震くらいである。(8) この余震域の東方の日本海で8月3日にM3.8の地震が発生している。(5) 7月1日に羽咋市南東の石川・富山県境でM3.3の地震が発生しているが単発的である。(6) 上高地周辺の地震は静穏化しているが8月9日にM3.3, 9月8日にM3.5の地震が発生している。(8) 長野県中部地震の余震域では目立った活動はなかったが、御嶽山の北側岐阜県高根村で8月2日にM4.2, M3.8の少し大きめの地震が発生している。(9) 富山県立山周辺で7月8日と8月9日にM3.4, M3.3の地震が発生しているが、ここは飛上高地付近の群発活動が北方へ拡大していった方向の延長と跡津川断層の延長が交差する場所で、双方の地震活動帯との関連が注目される。

(3), (4), (10) については、後の項で述べる。

第3図は北陸地方南部の地震活動状況を示す。

この地域は岐阜・三重県境付近の活動もおさまり、この期間も前の期間に引き続いて非常に静穏である。

(1) 5月2日に福井県永平寺町でM3.8の地震が発生している。岐阜県北西部の岐阜・石川県境、岐阜・福井県境でいくつかの少し大きめの地震が発生しているがいずれも単発的である。(2) 6月3日に福井県和泉村でM3.6, (3) 6月6日にはその東方の岐阜県白鳥村でM3.7, (6) 8月22日には石川県の白山でM4.1の地震が発生している。その他の地域では、(5) 7月31日に岐阜市北方でM3.6の地震が発生し、(7) 10月20日に福井県越前岬周辺でM4.0の地震が発生している。

(4) の地震については次項で述べる。

2. 近畿地方中北部の地震活動

第4図はこの地域の地震活動状況を示す。(1) 兵庫県南部地震の余震は前の期間に比べて少し活発になり、淡路島北淡町で5月5日にM3.3, 神戸市では6月20日にM3.5, 7月15日にM3.8の地震が発生している。また、余震域の南端の五色町でも6月6日にM4.0の地震が起きている。

(11) 逆に余震域の北端、有馬高槻構造線の南でも7月15日にM3.4の地震が発生している。余震域の北部の丹波山地の地震活動は、5月～7月に活発になった。(2) 5月15日に京都府園部町でM3.7, (6) 6月8日にその西北西の京都府京北町でM3.3, (7) 6月12日にはさらに西北西の滋賀県朽木村で、M3.3の地震が発生し、兵庫県南部地震前と同様の震源移動現象が見られた。その後は、西方の地域で地震活動が活発化した。(8) 6月14日に、京都府和知町でM4.0, (9) 有馬高槻構造線の西方出6月16日にM3.4, (10) 大阪府能勢町で6月30日にM3.5の地震が発生している。

奈良・三重県境の群発地震活動は、(3) 群発活動の西方奈良県日東吉野村で5月16日にM4.2の地震が発生した後、(5) 5月24日～6月14日の間に活発でM3.3以上の地震が11回発生しているが、Mは最高でも3.8とそれほど大きくはない。さらに7月に1回8月に1回、9月に2回M3.3以上の地震が発生している。(12) 8月2日と8日に大阪湾でM4.7, M3.8の比較的大きい地震が連発している。

(4) については、次項で述べる。

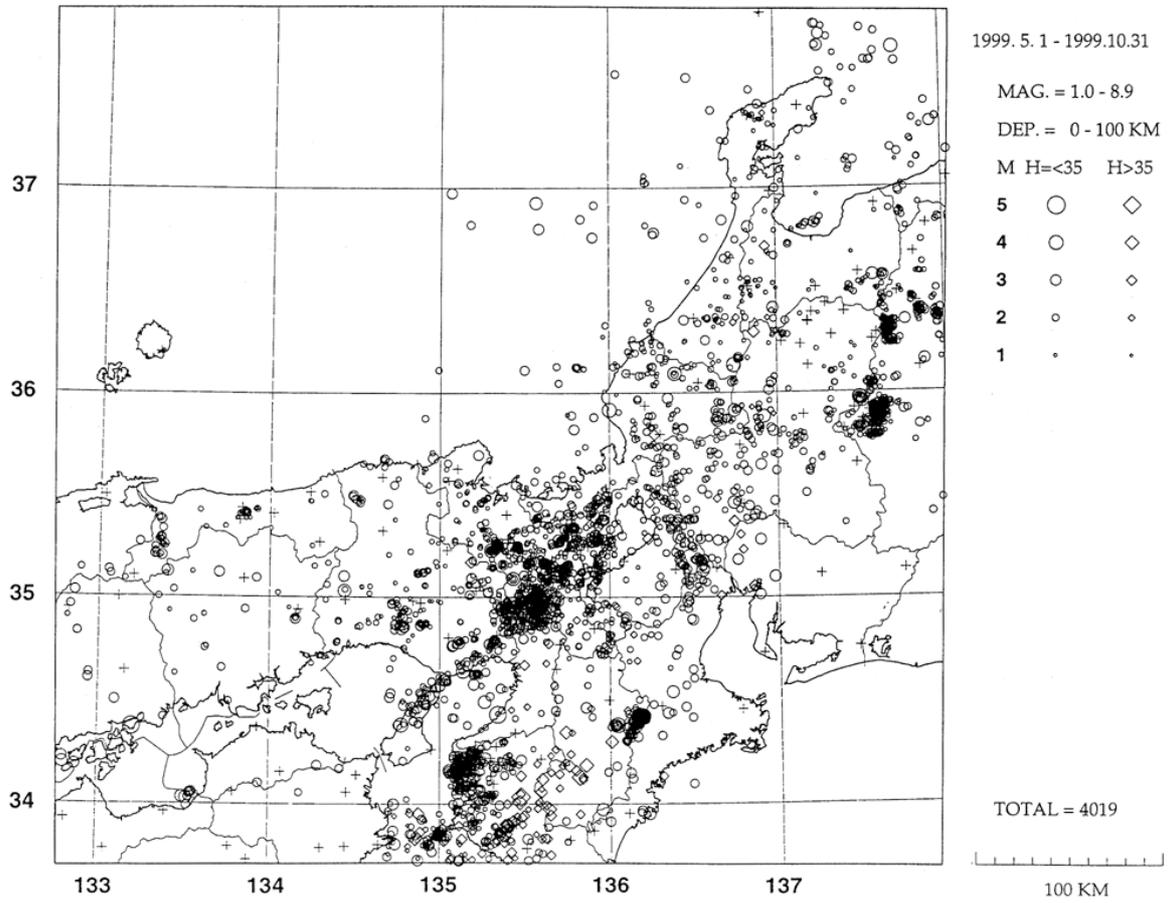
3. 中国地方東部の地震活動

第5図はこの期間中の中国地方東部の地震活動を示す。この期間は、山崎断層の地震活動が活発化した以外は、非常に静穏である。

(1) 山崎断層の東部兵庫県福崎町周辺では、西方の近畿地方の地震活動が活発であった5月18日にM3.6の地震が発生し、さらに9月25日にはM3.1の地震が発生するなど最近では活発な状態である。(2) さらに山崎断層の東部の兵庫県佐用町でも同様に5月20日に断層の南側でM3.6, (5) 8月17日に断層の北側でM3.0の地震が発生している。(4) 鳥取県西部地震の余震域では前の時期には比較的集中していた余震活動が南北に広がって発生するようになった。M3.0以上の地震は6月18日に余震域の南端の鳥取・兵庫県境出発生したM3.3の地震である。

西南日本内帯の地震活動

RESEARCH CENTER FOR EARTHQUAKE PREDICTION, D.P.R.I., KYOTO UNIV.

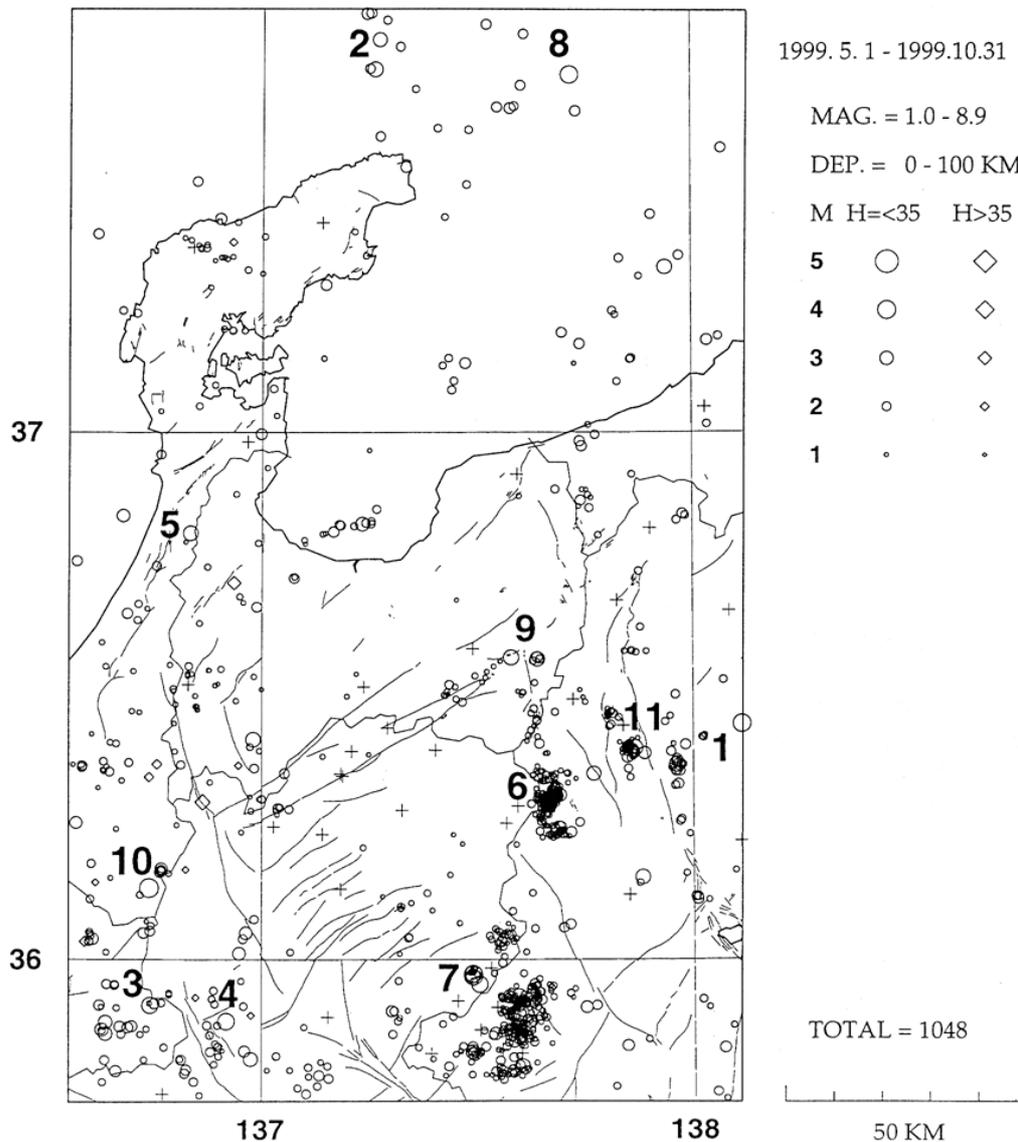


第1図 西南日本内陸部の地震活動 (1999年5月~10月)

Fig.1 Seismicity in the inner zone of Southwest Japan, May-October, 1999

中部地方北西部の地震活動 (1)

RESEARCH CENTER FOR EARTHQUAKE PREDICTION, D.P.R.I., KYOTO UNIV.

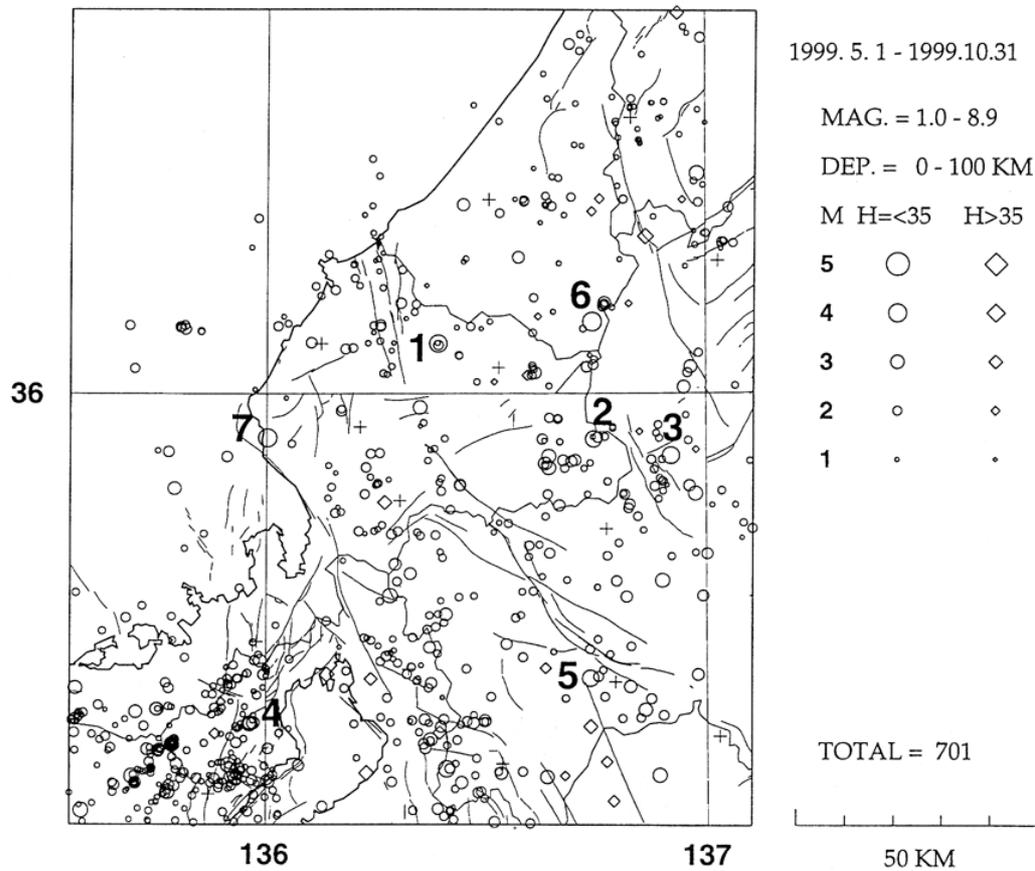


第2図 中部地方北西部の地震活動, (1)飛騨地方北部および北陸地方北部 (1999年5月~10月)

Fig.2 Seismicity in the northwestern Chubu region, (1)northern Hida and northern Hokuriku region, during the period May-October, 1999

中部地方北西部の地震活動 (2)

RESEARCH CENTER FOR EARTHQUAKE PREDICTION, D.P.R.I., KYOTO UNIV.

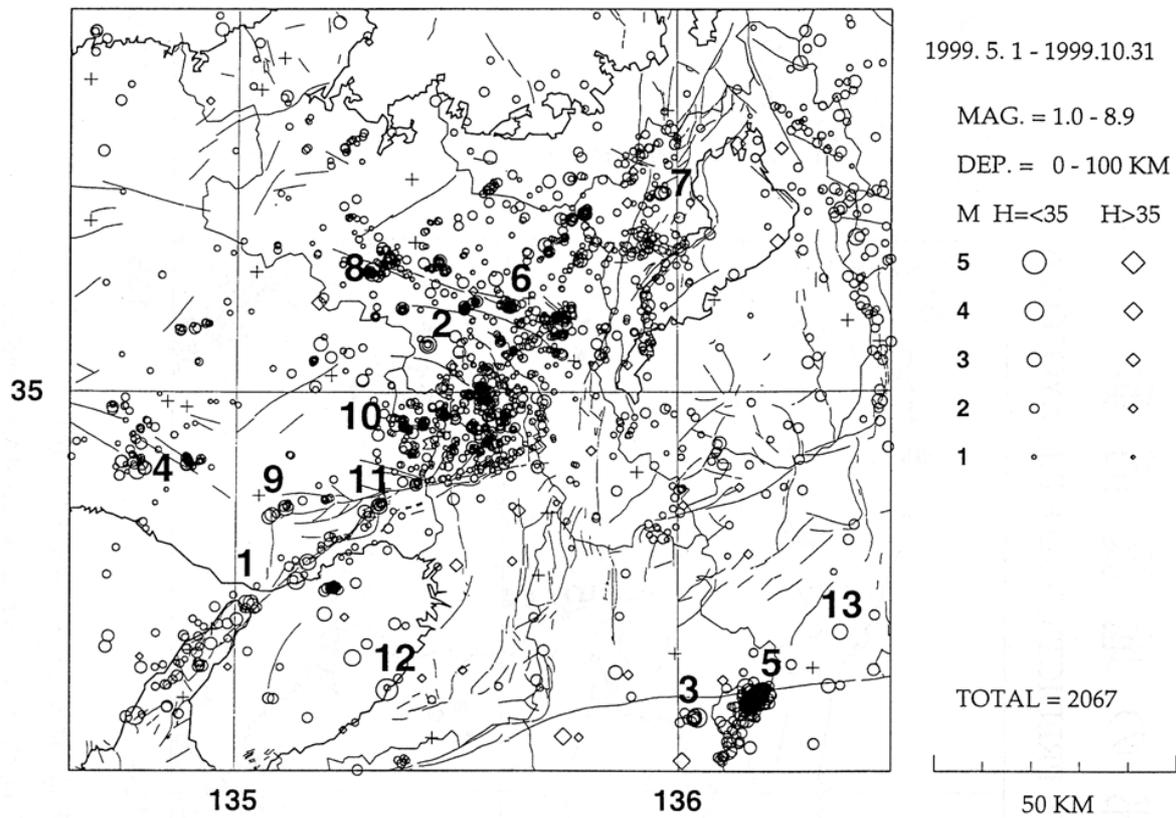


第3図 中部地方北西部の地震活動, (2) 北陸地方南部 (1999年5月~10月)

Fig.3 Seismicity in the northwestern Chubu region, (2) southern Hokuriku region, during the period May-October, 1999

近畿地方中北部の地震活動

RESEARCH CENTER FOR EARTHQUAKE PREDICTION, D.P.R.I., KYOTO UNIV.

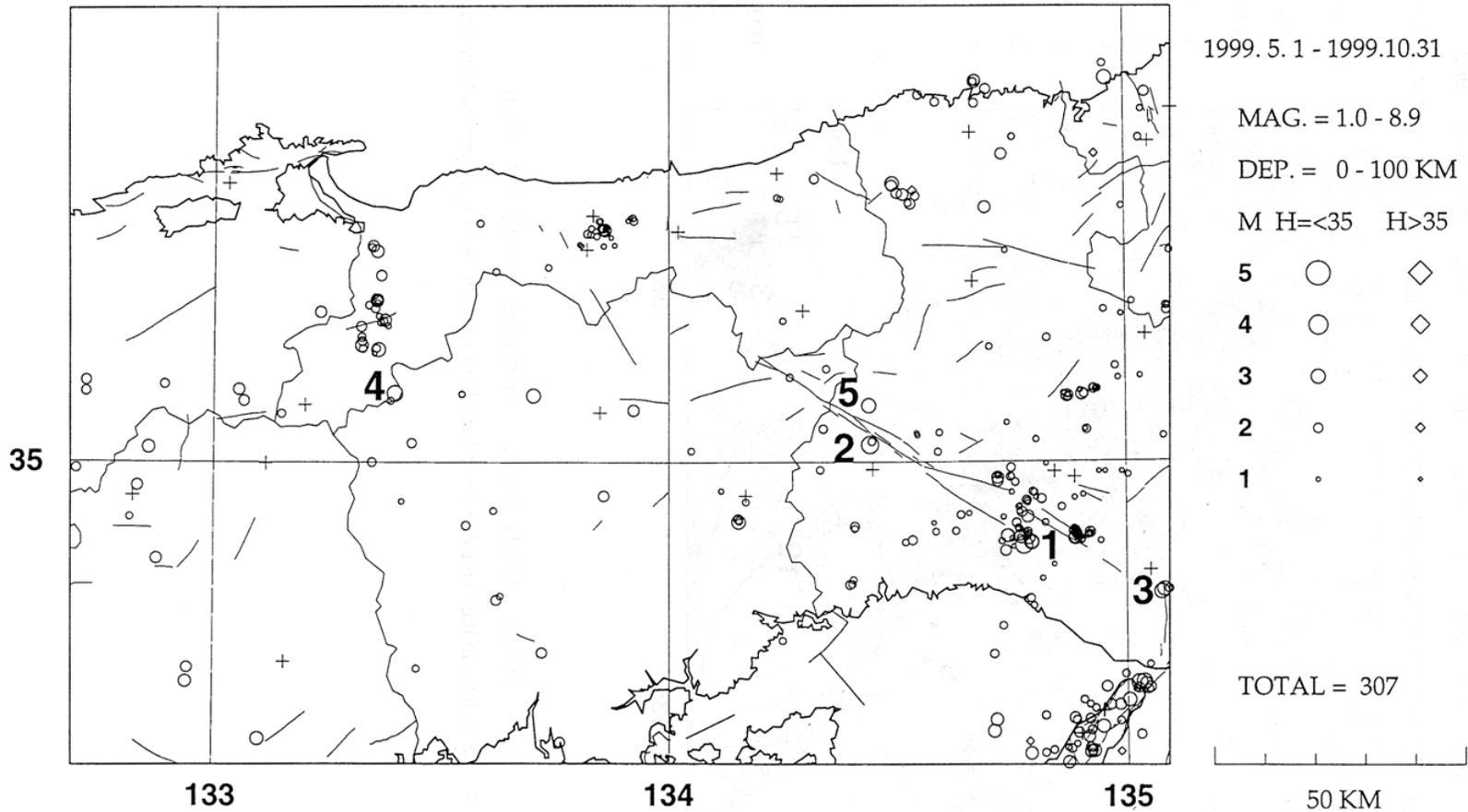


第4図 近畿地方中北部の地震活動 (1999年5月~10月)

Fig.4 Seismicity in the central and northern Kinki region, during the period May-October, 1999

中国地方東部の地震活動

RESEARCH CENTER FOR EARTHQUAKE PREDICTION, D.P.R.I., KYOTO UNIV.



第5図 中国地方東部の地震活動 (1999年5月~10月)

Fig.5 Seismicity in the eastern Chugoku region, during the period May-October, 1999